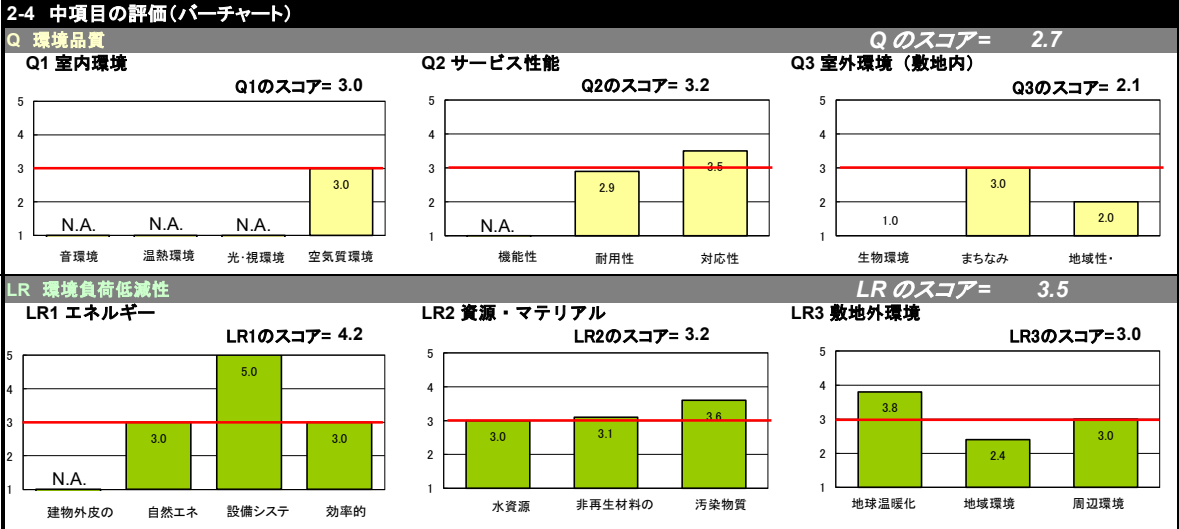
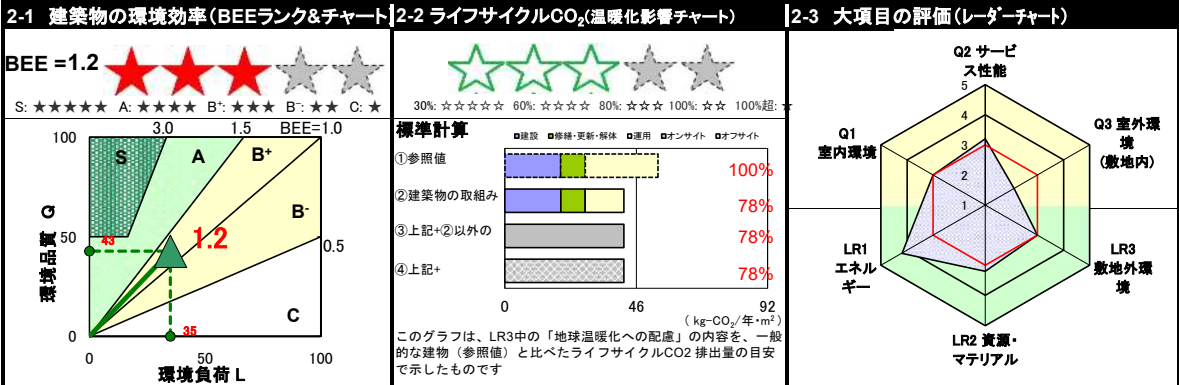


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ミヨシ油脂KMS工事新工場	階数	地上3階
建設地	愛知県岩倉市野寄町西出1-1	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年6月6日
敷地面積	31,572 m ²	作成者	加藤克騎
建築面積	3,560 m ²	確認日	2025年6月9日
延床面積	8,600 m ²	確認者	加藤克騎



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.8	1.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.1	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
ミヨシ油脂KMS新工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		独自基準	重点項目	評価点			重み係数	評価点		重み係数	評価点		重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質														2.7	
Q1 室内環境							0.30							3.0	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル															
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能															
2 界壁遮音性能															
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															
1.3 吸音															
2 温熱環境															
2.1 室温制御															
1 室温															
2 外皮性能															
3 ゾーン別制御性															
2.2 湿度制御															
2.3 空調方式															
3 光・視環境															
3.1 昼光利用															
1 昼光率															
2 方位別開口															
3 昼光利用設備															
3.2 グレア対策															
1 昼光制御															
3.3 照度															
3.4 照明制御															
4 空気質環境															
4.1 発生源対策															
1 化学汚染物質															
4.2 換気															
1 換気量															
2 自然換気性能															
3 取り入れ外気への配慮															
4.3 運用管理															
1 CO ₂ の監視															
2 喫煙の制御															
Q2 サービス性能															
1 機能性															
1.1 機能性・使いやすさ															
1 広さ・収納性															
2 高度情報通信設備対応															
3 バリアフリー計画		独自													
1.2 心理性・快適性															
1 広さ感・景観 (天井高)															
2 リフレッシュスペース															
3 内装計画															
1.3 維持管理															
1 維持管理に配慮した設計															
2 維持管理用機能の確保															
2 耐用性・信頼性															
2.1 耐震・免震・制震・制振															
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															
2 免震・制震・制振性能															
2.2 部品・部材の耐用年数															
1 躯体材料の耐用年数															
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②													
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															
6 主要設備機器の更新必要間隔															
2.4 信頼性															
1 空調・換気設備															
2 給排水・衛生設備															
3 電気設備		②													
4 機械・配管支持方法															
5 通信・情報設備															

ステンレス製ダクト 約20年

3 対応性・更新性				0.4	3.5	0.48	-	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり				0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	②	最上階 4.025m	-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38			-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17			-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17			-	
3	電気配線の更新性		ケーブルラックあり	3.0	5.0	0.11			-	
4	通信配線の更新性		ケーブルラックあり	3.0	5.0	0.11			-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22			-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.40		-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.5
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=-	3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.53	3.0	5.0	0.63		-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価					-	-		-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.2
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15		-	-	3.0
1.1 節水				3.0	3.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.1	0.63		-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			② 独自	SM490材使用。ハイパーデッキ等、ハイベース使用	-	4.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-		3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				-	3.0	1.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				独自	OAフロアを使用します	3.0	5.0	0.25		-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22		-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68		-	-	
1	消火剤			-	-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=1の仕様	-	5.0	0.50		-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率78%	-	3.8	0.33		-	3.8
2 地域環境への配慮				0.3	2.4	0.33		-	-	2.4
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25		-	-	
2	污水处理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自	駐輪場を確保している	-	4.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.33		-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.33		-	-	
3	悪臭			-	3.0	0.33		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-		-	-	
3	日照阻害の抑制			-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70		-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

ミシシ湖KMS工事新工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.16	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.14	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:18.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 ミヨシ油脂KMS工事新工場

計画上の配慮事項	
総合	市街化調整区域に位置する工場用途の建築物であり、建築物の周辺には畑、住宅が建ち並んでいる。
Q1 室内環境	工場のため対象外。
Q2 サービス性能	床、壁には更新必要間隔の長い建材を採用している。
Q3 室外環境(敷地内)	見通し良くし、防犯性に配慮した。
LR1 エネルギー	BEI:0.53に抑え、環境に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	分別が容易となるよう、OAはフロアやLGS+PBを採用している。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用していない。
その他	特になし